



[研究主題]

対話的学びによる思考力・判断力の育成

～ 各教科における課題と発問の工夫を通して ～



[校長より]

今年度の校内研修の総括である。平成 29 年度より本校は次期学習指導要領への移行を踏まえ、29 年度の校内研修に上記の研究主題を掲げ「主体的・対話的・深い学び」の授業の成立を目指して授業研究を進めてきた。校内研修の方針においては、定例の授業公開は学期 1 回と設定したが、3 人の担任は、それぞれ学期 4～5 回の授業公開を行った。教師の力量は授業で測られる、「教師は授業で勝負する。」私が教職についた頃、諸先輩の先生方が口々に告げられていた。先日の地区校長研修会における所長講話においても、校長の使命・役割として「後輩を育てる。」使命について講話された。私は校長としての学校経営ビジョンにおいても一人ひとりの教師の授業づくりを中核に据えている。私の校内研修における使命と役割は、教師たちが授業研究に邁進できる授業研究の環境の確立と、教師たちの学ぶ機会の設定と考えている。今年度本校の教師達の授業づくりへの挑戦は、教師一人ひとりに多様な学びが獲得されていたことを確信する。予測が困難とされる未来に向けて、「主体性・多様性・協働性・学びに向かう力の育成」を子ども達に育てて行こうと進む、本校のすべての職員に感謝の思いで頭が下がる。

H30.1.17 (水) 授業者：村山久志 (6 年担任)

個人テーマ	思考を深め、つながりをつくるジャンプ課題の設定
教科	算数
単元	割合を使って
本時のねらい	全体を 1 として割合の積を考えて問題を解くことができる。

このクラスを私は 6 年間見続けてきた。去年、このクラスで学びを知らないのは授業者だけであると紹介した。その授業者に今は深々と頭を下げる。彼の挑戦はまさに未知である。事例を追いかけるのではなく、



あくまで、自らの授業デザインにこだわる姿勢が素晴らしい。今年度も村のへき地研を含め何度授業公開を实践されたことか。「分からない」「難しい」からやらないのではなく、まさに教師が主体的に授業づくりを探究する姿を何度も拝見させてもらった。右上の写真授業者が準備した共有問題である。「簡単でない問題が、互いに訊き合うつながりをつくる。」授業者の信念は揺るがない。

**共有問題**

印刷会社で、音楽のプログラムを印刷することになりました。印刷機 A を使って、10 時から印刷を始めたなら 10 時 15 分までで 6000 枚印刷できました。これは予定の枚数の 30% です。この印刷機で休まず印刷を続けたとすると予定の枚数を全て印刷し終わるのは何時何分ですか。

20 分ほどで共有課題をグループや全体で練り合い、それぞれの解決法を確認して、右写真、ジャンプ問題へと進んだ授業者は「解けそうで、簡単には解けない」レベルとして準備したが・・・

**ジャンプ問題**

印刷機 B は、印刷機 A よりも 1 秒間に 2.5 枚多く印刷します。音楽会のプログラムを印刷機 A と B 両方使って、10 分間印刷した後、印刷機 B だけで 5 分間印刷すると予定の枚数の何%を印刷することになりますか。



この問題レベルで、「子ども達が協同で解決に向かう必然性が生まれたか？」が大切である。実際には、子ども達は夢中になって解決に向かって探究していった「分からない?」「なんで? どうして?」が子ども達の対話の中で行き交う。遠慮なく訊き合い「解決に向かう意思(わかりたい)」が鉛筆の動きと対話を加速させる。思わぬ躓き(授業者の予測以外)もあった。A機で5分やってB機で5分、それで10分。さらにB機だけで5分と題意をとらえてしまった仲間がいた。

[研究協議より]

- 導入を簡潔にしジャンプ問題を深める挑戦であった。
- 転校生の R さんも対話に入っていてよかった。
- ▲問題分析でつまづいた。子どものつまづきに気づき共有してもどすとよりよい。
- ▲真正な学びや合理性を大事にした方がよい。

個人テーマ	学び合いを通して、異学年をつなぐ授業展開の工夫
教科	音楽
単元	音の重なりを感じ取って演奏しよう。
本時のねらい	音の重なりを感じ取りながら、グループで協力して練習をする。

【授業者より】 昨年度より引き続き音楽を担当しています。子ども達は異学年それぞれの立場や役割を理解し、互いに支え合う支持的風土は確立していました。しかし私自身がしゃべりすぎたり、個人練習を多く取り入れたりしていたので、本単元では、協同対話、互いに支え合うことにこだわり、グループによる練習を取り入れました。異学年による技能の違い、楽器の違いがある中、どのように音が重なるように練習するのか私自身も学んでいきたいと思えます。



グループ活動においては、仲間に依存できない子や、つながれない子がいたら声かけできるようにしっかり子ども達を見取れるように努めます。・・・謙虚な授業者の声です。学び合う授業づくりに向けて2年目を向かえようとしている。日常は1年生1名、2年生1名の限界の複式授業を余儀なくされている。小集団による学び合いは、全校音楽や月に1回の全校道徳でしか経験できない。同僚の日常の授業も何度も拝見させてもらった、「私なりに、この子達と創り合える授業の模索」が授業者の研究のテーマとなる。



本時の学習のねらいや、展開を確認したらグループでの練習に入る。グループは、さすがに異学年を考慮して担任配慮で構成した。技能教科では子ども個人の器用さや苦手が容赦なく表に出される。しかし、この子達は幼少の頃からお互いの得意、不得意は十分に心得ている、その事実を踏まえての授業であるうれしいのは、あまり上手でない子への不満や焦りを誰も感じさせてくれないところと、何の声かけがなくても自然に高学年が低学年を支えている。この子達の授業で、いつも私が癒される風景である。

【自然と違和感なくペアが形成され練習する】・・・1週間前に転入生2名が入る状況である。

右の写真は、グループ練習が始まってしばらく、それぞれの役割を決めたら自然とペアが形成され練習が始まった。1・2年生は鍵盤ハーモニカで参加する



るが、6年生が丁寧に寄り添い支える。右の3名のグループでは1年生の鍵盤ハーモニカのメロディをシンプルに編曲して弾けるようにした。はにかんだ笑みを浮かべて喜ぶ1年生、授業終盤のグループ発表では、



見事に自分の担当をやりきった、1番喜んだのは6年の女の子だった。不器用さは美器用(学び上手)になる。左の写真、苦手な男の子が、必死に、女の子から教えてもらい技術の習得を図ろうとしている。これも、男の子の「ぼくもできるようになりたい」主体性である。

右の写真、不器用な男の子が、さらに不器用な4年生に伝授している。教える側も、教えられる側も、必死に呼吸と指を合わせるが…進展しない状況が長々と続く。しかし今日の



私の感動はここにある。…この二人、あきらめたり、投げ出したりする様子が全くうかがえない、時間ぎりぎりまでなんとか「できるようになりたい」モチベーションを維持し頑張り続けるのである。素晴らしい!

PISAは「困難な課題に対し、解決に向かう意思と力を身につけさせる。」と学校の役割への提言をした。目に見える形として、今日のこの二人の姿ではないだろうか。…「何とかできるようになりたい」…これ!

【研究協議より】

- 子どもが主体的に学習していてよかった。そのグループにあった演奏を子ども達自身が創意工夫してた。
- 音楽のよさ(リズム・ハーモニー・詩を味わう)が全て入っていた。
- ▲体で感じるために歌唱は起立がよい。全体共有の場を入れ、歌詞にそった発問をしてみるとよい。
- ▲場の設定が必要(息を合わせて向かい合って練習できるようにした方がよい。)



個人テーマ	学びの確立を目指した発問の工夫 ⇒ 『きく・つなぐ・もどす』
教科	図画工作科
題材名	観る 感じる 伝え合う (鑑賞)
本時のねらい	☆ 諸外国の美術作品を友達と鑑賞し、その作品の良さや面白さを感じ取る。 ☆ 感じたこと、考えたことを伝え合い、お互いの多様な見方や考え方を認めながら楽しく鑑賞する。

[授業導入] 絵画の鑑賞における、見方・考え方の振り返り「見えないモノの想像(創造)」



授業者は前時までの作品の鑑賞の視点や考え方を振り返る。4枚のカードを無作為に選択させ4コマ漫画的にストーリーを作成させ。想像することの楽しさを味わわせたい意図がある。



①それぞれが手にした作品カードを自分なりに解釈する ⇒ ②仲間の作品と合わせてお話をつくる。  
③グループの発表 ⇒ ④発表を聴いての感想 ⇒ ⑤同じ絵をグループ間で交換し、お話をつくる ⇒ ⑤発表する。・・・確かに、子ども達の様々(多様)な見方・考え方・想像にふれ、楽しみながら鑑賞することはできたが・・・ただ…時間が(タイムマネジメント)10分以上費やしてしまった。

[本時のメイン作品の提示] ムンク(フランス画家)作品名：『叫び』

授業者は作品を黒板に提示し、さらに子ども達にもA4印刷の資料を配布した。



子ども達は躊躇なくブツブツつばやく。「怖い」「気味悪い」など感性が受け入れたままに勝手に伝え合う。授業者は、自分の資料の周りに「思ったこと・考えたこと」を自由に書くように指示した(右写真)。子ども達は様々な感想を仲間に伝え合いさらに、自分の資料に書き込んでいった。それぞれの感性はここで交流された、さらに「なぜ?」「どうして?」など自分とは違う仲間の感性に「問い」が投げられる。



1枚の絵は子ども達に多様な見方や考え方を提供し、お互いの感性を磨き合うアイテムとしての役割は十分に果たしてくれた。・・・しかし、作者のモチーフやメッセージまで触れて考える時間が・・・むう～。

[授業ビデオより]

Y子：ムンクって人の名前？ S子：「ムンク」ってなんか意味ある言葉なの？  
W子：絵に吸い込まれそうで怖い M子：知らない世界に入り込もうとしている。



授業者は全体共有でもそれぞれの感性に「なぜ? どこからそう思ったの?」などの言葉で子どもの考え方や見方を引き出そうとする。

S子：呪い、呪われ、呪い合っって…こうなってしまった。

授業者より「問い」が下ろされる：この人なぜこうなったと思う。何があったんだろう。ちょっとグループで話してみて。



Y子：人生最悪の時で、どうしていいかわからなくなっている。

全体共有の話が作者のモチーフやメッセージから遠ざかってしまった。(病气、剥げにされた、後ろの人たちの噂におびえている・・・など)

さて、考えたい。図工科「鑑賞(他者の作品を見る)」における真正の学びって何だろう。⇒教師への問い

[研究協議より]

▲図画工作科における授業の質の低さを感じた。自由な発想もいいが作者の思いを大切にされた対話の方が深まる。

▲タイムマネジメント(導入をインパクトにシンプルに)